

アフリカ 地域研究会

会場：京都大学稲盛財団記念館3階
318ゼミ室、中会議室

時間：午後3時～5時

参加無料、申込み不要

229
2017年10月19日(木)
於：中会議室

第229回

パーニュの文化誌：

現代西アフリカ女性の衣服の成立と普及

遠藤 聡子

内閣府大臣官房企画調整課
野口英世アフリカ賞担当室・主査



西アフリカのギニア湾沿岸国を中心に、プリント更紗「パーニュ」を用いた衣服が広く普及している。工業生産されたパーニュが洋服にも似た形に仕立てられる。歴史は浅いがこの地域の代表的な衣服である。本発表では、パーニュを用いた女性用の衣服に着目し、ブルキナファソでのフィールドワークの結果をもとに、西欧化やグローバル化が進む中で、地域特有の衣服が成立し普及する背景を考える。



230
2017年11月16日(木)
於：中会議室

第230回

ドイツと旧アフリカ植民地との

「特別な」関係：遺骨返還問題を事例として

小田 博志

北海道大学大学院文学研究科・教授

西洋列強によるアフリカ分割は1884-5年のベルリン会議で決定的となった。その頃、植民地の住民の骨を対象とする形質人類学研究を対象とする人類学研究が活発になり、ドイツ領南西

アフリカ（現・ナミビア）などから数多くの人骨がベルリンに集積した。近年その返還・帰還の要求が旧植民地側から出されるようになってきている。ポストコロニアルなどの問題が、ドイツ社会に何を投げかけているのか、また日本との関連は何かについて考察したい。



231
2017年12月21日(木)
於：318ゼミ室

第231回

エチオピア・アファール凹地での

地球電磁気学的探査：

海洋底拡大の様相を陸上で探る

石川 尚人

京都大学大学院人間・環境学研究科・教授



エチオピア・アファール凹地は、大陸リフティングから進行し、現在、海洋底拡大現象の開始時期の段階にあり、中央海嶺が海面上に露出していると考えられている。そこで我々は、海洋底拡大軸域での磁気異常構造とその形成過程を詳細に明らかにするために、海洋底で起きている現象を陸上で見ることのできる利点を生かし、地球電磁気学的なアプローチで調査を行っている。その調査の状況を紹介します。



232
2018年1月18日(木)

第232回

於：318ゼミ室

放牧から読み解く地域環境

手代木 功基

摂南大学外国語学部・講師

家畜放牧は、乾燥地域に暮らす人々にとって重要な生業であり、地域の自然環境と密接に関わって成立している。しかし、干ばつなど極端気象イベントの影響や、植生劣化と放牧の関係など、乾燥地の環境を理解する上で重要なテーマについては未だ不明点が多い。本発表ではナミビアを事例として、家畜放牧がいかに地域の自然・社会環境と関わり合って成立し、変化しているのかを明らかにする。



233
2018年2月15日(木)

第233回

於：中会議室

フィロウィルスの自然宿主は？

ザンビアでオオコウモリを追う

小川 寛人

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・助教



フィロウィルス感染症（エボラウィルス病とマールブルグ病）は、サハラ砂漠以南地域で散発する出血熱として1970年代から知られていたが、2014年の西アフリカでの大流行は世界中に大きなインパクトを与えた。感染症対策に必要な不可欠な自然宿主の特定は至っておらず、未だ謎に包まれている。本発表では、我々の現地調査を通してフィロウィルスの生態について紹介したい。



お問い合わせ：京都大学アフリカ地域研究資料センター
電話：075-753-7803
E-mail: caasas@jambo.africa.kyoto-u.ac.jp
HP: http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/